

## 平成 19 年度 研究開発型ベンチャー技術開発助成事業 採択課題一覧

	事業者名	開始期間	事業名	事業概要
1	アルブラスト株式会社	H19.9～	安全・均質・有効な角膜再生医療材料の製造・品質管理方法の確立	確立された治療手段がなく失明している眼表面疾患患者にとって、画期的な角膜表面再建法として実績を積んできている角膜表面再生医療材料(羊膜を用いた口腔粘膜上皮シート)の実用化を目指す。本事業では患者が安心して治療を受けられるように、安全かつ均質な製品の製造工程開発、並びに品質管理方法の構築を実施する。本技術の実用化により多くの失明患者が社会復帰を果たし、結果として医療経済的負担の軽減を目指す。
2	株式会社ウィスコム	H19.9～H20.3	新機構を用いた燃料電池用ブロウの開発実用化	家庭用燃料電池システムの補機として、オリジナルの新機構を用いたブロウの実用化開発を行う。この新機構は、流体の連続的な移送・圧縮が可能で、低消費電力・低騒音・低振動・長期耐久性・低コストの特徴を有しており、燃料電池の要求仕様を十分に満足できるものである。本開発事業により、燃料電池の開発・普及に貢献すると共に、ブロウ技術を革新し、将来の幅広い分野への事業展開を図るものである。
3	株式会社 エム・シー・エル・コーポレーション	H19.9～	塩化ビニル管を用いた小口径・長距離・曲線推進工法用機器の開発	下水道管路の構築を開削工事で行う場合は塩化ビニル管が市場の 99%を占めているにもかかわらず、推進工事ではコンクリート推進管が主体に採用されている。コンクリート管では腐食による補修・再生工事が必要で社会的な負荷も高い。そこで耐腐食に強いが、耐荷力の小さな塩化ビニル管を用いて長距離・曲線施工を可能とする推進工法用機器を開発する。
4	オプトエナジー株式会社	H19.9～	加工向けファイバレーザ用高出力半導体レーザの開発	近年、ものづくり現場においてレーザ加工への期待が急速に高まり、小型、高効率、高性能という優位性を有しているファイバレーザに関心が集まっている。本事業は、このファイバレーザの中核部品である高出力半導体レーザの開発を目的として、日本発ファイバレーザの基幹部品を提供することを目指す。
5	ジェイファーマ株式会社	H19.9～	胃硬性がん療法の開発	がん細胞の増殖に不可欠な必須アミノ酸を輸送するがん特異性中性アミノ酸トランスポーターLAT1 は機能が明確ながんマーカーで、診断・治療の標的になる。がんにのみ作用し、正常細胞には作用しない新規合成 LAT1 特異抑制物質 JPH203 は酸性下で安定で、胃内でがん細胞増殖抑制に必要・十分な濃度を保持できる。これら LAT1 抗体による診断と JPH203 による治療を若年層に発症、致死性が高く、適薬のない胃硬性がん療法として開発する。
6	株式会社 GENUSION	H19.9～	B4-HE 注入を用いた超高速書込み不揮発性メモリの実用化開発	平成 15 年より開発を進めている GENUSION 独自技術である B4-HE(Back Bias assisted Band to Band tunneling induced Hot Electron)注入を用いた超高速書込み不揮発性メモリ、B4-Flashメモリの量産化につなげる実用化開発を行う。

7	ジェノメディア株式会社	H19.9～	HVJ-エンベロープベクターを利用した新規癌免疫療法剤の開発	HVJ-E ベクターは、純国産のドラッグデリバリーシステムで、遺伝子治療薬、核酸医薬、抗体医薬など先端バイオ医薬を高効率にデリバリーすることができ、さらに独自のメカニズムで癌に対する免疫を効率的に誘導することができる。本事業では HVJ-E ベクターを先端バイオ医薬のデリバリーシステムとして利用し、癌（難治性の転移・再発癌を含む）に対して既存治療法との相乗効果が期待できる新しい治療薬を実用化する。
8	株式会社バイオメッドコア	H19.9～	糖鎖受容体を標的としたナノターゲティングデバイス製剤の開発	免疫細胞膜上のマンノース糖鎖受容体を標的としたマンノース糖鎖被覆多重層リポソーム(ナノターゲティングデバイス)製剤は、各種薬剤、抗原を内包し、薬物輸送キャリアー、Th1 ワクチンアジュバントとして有用で、癌、感染症、アレルギーの革新的な予防、治療剤となる。同製剤の非臨床試験用としての基本製剤プロセス開発を行う。